



春の便り——沈丁花

立教池袋高等学校

高校卒業生へ

コロナ禍を経験して

校長 豊田 由貴夫

皆さん、卒業おめでとう
ございます。

みなさんの高校卒業前の最後の一年間は、新型コロナウイルスにより、大きな影響を受けました。さまざまな行事が中止になったり、縮小して行われたりしました。そして授業も休校期間があり、一部は遠隔授業となりました。

朝礼でも伝えましたが、この新型コロナウイルスの感染拡大というのは、歴史的な事件になります。感染が収束した後も長い間、語り継がれることでしょう。その意味では、皆さんは歴史の事件をリアルタイムで経験したことになります。

歴史の生き証人になったと言ったことができます。コロナ禍にあつていろいろと不便な思いをしたと思いますが、この経験を、社会を見る目を養うような、そのような機会として前向きにとらえてほしいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大により、旅行業、宿泊業、飲食業などの業界は深刻な打撃を受けました。製造業も部品の供給がストップすることで生産ラインが止まるという影響を受けました。それに関連して、我々が予想もつかないような業界でも大きな影響が出ています。

働き方も変わりました。在宅勤務が増え、今まで対面で行われていた仕事もリモートで行われるようになり、これまで当たり前とされてきた様々なやり方が見直されるようになりまし

た。原則、在宅勤務で、オフィスを持つことをやめたという企業も現れていますが、働き方がまったく変わった企業もあるわけでは、一方、コロナ禍にあっても仕事を続けなければならぬ人たちがいるのもわかりました。医療従事者や公共交通機関、物流関係の人など、いわゆるエッセンシャル・ワーカーと呼ばれる人たちがいます。どんな時でもなくてはならない、そしてリモートでは仕事ができない人たちがいるのも事実です。

国際政治もウイルス対応で変わる可能性があります。すばやく感染収束に成功した国は力が強くなると言われ、またワクチン開発によって国の力を拡大しようとする、いわゆるワクチン外交が行われています。世界の勢力図も新型コロナウイルスによって変わる可能性があります。新型コロナウイルスによって何が変ったのか、ウイルスの感染が収束したのか、元にもどらなかったのか、それらを皆さんは自分の目で見て、自分の感覚で体験することができま。コロナ禍というこの自分たちの経験を生かして、その意味を考えることで、社会を見る目を養ってほしいと思います。

皆さんはこれからの社会で中心になる人たちです。立教池袋中高の六年間で身につけた力で、是非、社会で活躍するリーダーとなってください。

経験は財産

君たちは今、自らの意志で選択をした、立教池袋中学校での生活を終えようとしています。当初思い描いていた未来や、期待していた成果は得られたでしょうか。結局は自分しか分からないものですが、こうした節目を迎えた時にこそ、答えは出るものです。私は、中学時代の忘れられない失敗の経験が二つあるのです。それが無かったとしたら、今の自分は成立していただろうか、と今でも思っています。心に残っている経験ができたかどうか。成功、感動、失敗、後悔など、今心に残っている経験が本物であったと考えてよいと思います。君たちは今後の人生において必ずいくつかの節目の時期を迎えます。それまでにいくつか心に残る経験をされたか否かで、その先の人生の指針が決まり、それに見合ったチャンスが訪れるように思います。立教に集う君たちには、多様な経験ができる環境があります。今は焦って完成形や正解を求め過ぎず、その経験こそが価値を見出せる人になってください。卒業おめでとう。(一組 梅野伸也)

中三組主任より

与える人ほど受け取れる

何事もオンラインでできる時代になった今だからこそ人と対面で過ごす時間がよりいっそう有意義に感じられる。これから先どんな人生を歩もうとも、人とのつながりが無くなることはない。今後もみんなに居続けてもらいたい。聖書にはこんな言葉がある。「わたしの考えはこうである。」「豊かにまく者は、豊かに刈り取るようになる。」(コリントの信徒への手紙二 96)周りに多くを与えることができると人は、周りから信頼、感謝、喜びを受け取るはず。また、自分が与えられる側になることもあるだろう。共に支え合ひとりではできない大きなことを達成できる。これからの多くの種をまき、人生を豊かにしていくってください。卒業おめでとう。(二組 志水 元)

「強い思いは叶う」

小学生の頃の夢はサッカー選手だった。ちよと、Jリーグが活躍していた。キングカズと三浦知良選手にも憧れて、朝は学校の校庭で先輩たちとサッカーしたり、等々力競技場に行ったり、ワールドカップも見たりから勉強も忙しくなりサッカーが離れ、受験勉強が一段落する頃には興味も変わってしまった。またその頃には妹に勉強を教える機会が多くなり、今思えばそれが教員を目指すきっかけになっていたと思う。目標は変わってしまいましたが、高校生になってからは学校の先生(塾の先生)を目指して、まずは第一志望の大学を目指し、その結果、幸運にもその努力は報われ現在に至っています。「求めなさい。そうすれば、与えられる。」という聖書の言葉には深く突き刺さるものがある。サツカ選手にこそなり損ねたが、君たち3年生と面会お話し充実した日々を過ごさせておいて感謝している。卒業おめでとう。(三組 伊藤 俊)

大人に向けて

立教池袋中学校での学校生活が終わる。成人式を目安とすれば、大人の仲間入りまで4分の3が経過したことになる。心も身体も大人への仕上げの時期だ。うれしかった思い出も、あーあと思う経験も、高校生生活を充実させるために利用しよう。どんなでき事も自分を高める材料になる。それから自分の意志をしっかり持とう。「自分はこうしたいのか。どうなりたいのか」ということを真摯に考える。それが自己実現への大切なスタートだ。最後に、この一年は我慢しても良かったこと、面倒もかけたことがたくさんあった。多くは悔しい思いもしたはず。それは悔しい思いもしたはず。年として活動してくれただみなさんを誇りに思う。ありがとう。そして大人に向けての中学校卒業、本当におめでとう。(四組 荻野朝行)

高三組主任より

感謝の公式

私が考える「強い人間になるための五か条」から、卒業を迎えた君たちに「感謝をせよ」という言葉を送りたいと思う。何を今更と思うかもしれないが、今一度「感謝ができる人間」の条件を考えて欲しい。人間の余裕の大きさと、感謝の量は比例する(二方が二倍三倍になれば他方も二倍三倍になる関係)と考えられる。また、今が当たり前だと言った考えを保持している人は感謝ができない。ここから見えてくるのは、人間的に余裕があり、想像力を膨らませて「もし〇〇だったら」と考えることができる人が「感謝」ができる。人なのではないだろうか。数学の問題のように始めから形式的で良い。やがて、その感謝は本物になり強い人間の基盤を作っていく。感謝＝余裕×想像力。卒業おめでとう。そして、ありがとう。(二組 砂井博光)

過ぎゆく時の中の想い

これだけ長い時間を共に過ごしていると、日常生活の中で君たちの発声や筆跡だけで個人を特定できたり、次にとる行動や発言を予測できたりすることが多くあり、不思議な愛着を覚える。これからは、それぞれが自分で決めた道を歩まなければならない。「今・ここ」にずっと留まり続けることはできない。人間は、そうして変容する過程の中でしか生きられない。利利的で不確かな存在なのだろう。だが、卒業後、またいつの日か、君たちの親しみあふれる形姿を目にして、私の記憶の中でかつての出来事の断片が蘇ってきたとしたら何よりの幸せを感じるだろう。卒業おめでとう。そして、また会おう。(三組 綾部保志)

探求・探究

「テーマを持って真理を探究する」。テーマとは何か。語源を辿るとギリシア語で「置かれたもの」に相当する。自分分の人生の中心に位置する何かと換言できるかもしれない。高六年間で見つけられたら幸運だが、決して焦る必要はない。探し続けよう。テーマが見つければ、その学びを続ける道のどこかで「他者」のために還元しよう」という地点に必ず辿り着く。学びは本質的に社会に開かれたものであり、他者への還元が価値であり、運がよければ職業にもなりうる。僕の場合はそれが英語だった。自分を突き動かす原動力は何か。使命は何か。人生は常に探求と探究であるように思う。こうした営みを通して、誰かのために何か一つでも価値を提供したいだろうか。一人ひとりのテーマが見つかり、充足感のある人生を送れるように心から祈っている。それがこの学年の生徒の願い。何かがあっても好きだからである。こんな未熟で浅学な教師に付き合ってくれてありがとう。卒業おめでとう。(四組 小林隆史)

2021年度 立教大学 推薦入学者数

学部	学科	専修	推薦枠	合格者数	
文	キリスト教		2	0	
		史	日本史学	8	7
			世界史学		
			超域文化学		
	教育	3	5※※		
	文	英米文学	6	3	
		ドイツ文学	2	0	
		フランス文学	2	0	
		日本文学	4	1	
	経済	経済		13	13
会計ファイナンス			7	7	
経営		経済政策	7	7	
		数	(2)	0	
理	物理		(2)	2	
		化	(2)	0	
	生命理		(2)	0	

学部	学科	推薦枠	合格者数
社会	社会	6	6
	現代文化	6	6
	メディア社会	6	6
法	法	14	14
	政治	4	4
	国際ビジネス法	4	4
観光	観光	7	8※
	交流文化	6	2
コミュニティ福祉	福祉	6	0
	コミュニティ政策	6	1
	スポーツウエルネス	4	1
経営	経営	9	9
	国際経営	7	7
現代心理	心理	6	3
	映像身体	6	2
異文化	異文化コミュニケーション	6	6
GLAP		1	1
合	計	169	128

※ 新座校より1つ枠を受ける。
 ※※ 新座校より2つ枠を受ける。
 理学部は、各学科4名まで。ただし、理学部全体では8名まで。

2021年度 立教大学被推薦者の英語条項

英検2級 (TOEFL, TOEIC 等も含む) 以上で認定	89%
英検準2級 (TOEFL, TOEIC 等も含む) + a で認定	11%

英語条項
 今年も英検・TOEICで、ハイスコアを取った生徒が大変多かったようです。一・二八名が認定され、このうち、英検二級(またはTOEFL・TOEIC等と同程度のスコア)以上の有資格者が一・四名となりました。

自己推薦

自己推薦は七項目あり三項目申請できるのでありますが、ほとんどの生徒が学業面と生活面から申請をしました。学業面は三年間でA合格(B合格二個でA合格に相当)が二五個以上ある者が三五名、また、生活面では中高六年間精勤または高校三年間皆勤が九三名。ともに学校生活において大変努力した結果であると思われまます。満点の一五〇点が九名、一・二〇点以上が六四名の結果でした。※卒業生受賞者については式当日配布の式文をご覧下さい。

十字 今月の聖句

33 These things I have spoken to you, that in Me you may have peace. In the world you will have tribulation; but be of good cheer, I have overcome the world.

The Gospel of John, 16:33

Once again, we are at the end of an academic year. This means some of us will be moving on to new schools or new places of employment. Sometimes these changes are welcome, but sometimes there is reluctance or sadness at this departure. Newness and what is unknown can give anxiety for some, even though most people are looking forward to the excitement that often accompanies new beginnings. Jesus talks about this with his disciples as His departure from them is near. Jesus is not just going away, but will soon endure great physical and emotional suffering as He heads to the trial and the cross. For his disciples, He knows that they will have trouble and He seems to imply that each one of them will face a different kind of trouble than the others; tribulation is a word that means great suffering, or travail. But the passage is overall positive. It points to the peace that His words will provide them. Even though He warns them of their precarious existence, He encourages them with His triumph over the world, knowing that they too can use His example for themselves. We are all disciples of Christ in a variety of ways. Your teachers as well as your chaplain have spoken these things to you, too. And just as Jesus showed His disciples, He shows you, too. His overcoming the world of tribulation is not just His experience to read about, but a template for your guidance. In Him, you can have peace!
 Fr. Mark Stahl, Chaplain

中学一年便り

ベストセラーより

私が、スタジオジブリ作品が好きだということを知っている諸君も多いだろう。その私にとって激震が走るものがあつた。(私にとつては)ポツと出たアニメに、「千と千尋の神隠し」が座していった映画興行収入第一位を奪われてしまったのだ。その映画こそ「鬼滅の刃」。小説部門でも昨年、ベストセラーとなつていて、今更このアニメを持つてくることが自体ナンセンスかもしれないが、クラスだけでもなく、私の家庭の中でもこのアニメや主題歌の話もこの事欠かない中で、私は勝手に悔しさを抱いて、見ない、聞かないようにしていた。が、やっぱり気になつたので、ちよつとだけパパラ鬼舞辻無惨、鬼殺隊：あえなくハマリ、その人間模様、鬼に潜む背景など結構面白くはないか。何が多くは登場人物が語りかける言葉にあるのかもしれない。若葉さん(心燃やせ)と語る。その母は、強く生まれた者の宿命を「弱き人を助けるため」と説く。書きたて先日、礼拝前後で聖書(二四章三二節)「私たちが心は燃えていたではないか」「ローマ二五章一節」「私たちが強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり」なるほど。

(市橋祐介)

中学二年便り

まとめるといわれても...

わたしは言った
 「ああ、わが主なる神よ わたしは語る言葉をしりません。わたしは若者にすぎませんから。」
 しかし、主は私に言われた。「若者にすぎないと言つてはならない。わたしがあなたを、だれのところへ、遣わそうとも、言つてわたしに命じることを全て語れ。彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて必ず救い出す。」と主は言われた。(エレミヤ一七・7-8)
 これは、エレミヤという人が神から預言者になれよと言われたときの話です。さて、皆さんは四月から中三です。中学校の最高学年です。クラブや委員会、クラスで皆をまとめたり、大事な決断をしたりしなければならぬときがあります。そんなとき、皆さんはどうでしょう。エレミヤみたいな「どうせ俺にはできないよ」と思つてあきらめてしまふことはないですか？
 そうは言つても最高学年なのでやる時はやらなければなりません。エレミヤも最初は断りましたが、結局三大預言者の一人になりました。そこにたどり着くまでは、神の助けがありました。皆さんも、一人でまとめろとは言いません。周りの仲間や教員を頼つてもいいのです。力を合わせて、全体をまとめていけばよいのです。そんな三年生になるんだと思つて春休みを過ごしてください。

(吉井佑介)

高校一年便り

バランス感覚を大切に

今学期は緊急事態宣言の期間中で学生会活動が暫く自粛でしたが、この原稿が掲載される時には、宣言も解除される時が再開されている事を願います。
 この一年を振り返れば学校は多方面でコロナの影響を受け、授業がオンラインで実施され、学校行事も殆どが中止または簡略化されたの実施となつた。ワタチン接種がスタートしても一般の方が接種できる日はまだ先の話。学校生活が平常に戻る日はなかなか見えません。
 このような状況の中で、来年度の生徒会選挙が実施され数名の生徒が立候補し、この学年の生徒に限らず、昔から目ぼしい生徒に立候補を促すと「学生会に集中したいから」とか「成績がまずいから」という理由で断られる。気持ちや取り組めば立教大学は保証されている本校に在籍しながらこんな消極的な考えでは、現状のコロナ禍では社会に出て大丈夫なのか不安が残る。
 本校校長の豊田先生が卒業された高校は埼玉県下で有名な進学校だが、校訓に「三兎を追え」という言葉がある。進学校だから学習はもちろん部活・学校行事も三つは最低取り組みなさいという意味である。本校の生徒とレベルの違いは多少あるにせよ、この気構えは参考にして欲しい。一つの事に熱中する事も良いが高学時代に様々な事にチャレンジしてバランス感覚を身に付けて欲しい。今後まだ予測できない事態が起こる事だが、その時に冷静な判断ができるかどうかは様々な経験によるところが問われると思ひます。

(橋本博)

高校二年便り

共に生きる

休校期間中、オンラインで実施した面談では、「学校再開はいつですか?」「早く再開してほしい」と多くの者が言っていた。早いもので、九月から学校が再開して半年が経つ。今では「休校にならないんですか?」と云う者も少なくなない。だが、そんな生徒たちも含め、課題の相談をしたり、わからない問題を教え合ったり、ゲームの話をしてたりしているみんなの表情は、やはり通常の学校生活が一番だと思わせてくれる。
 確かに、知識や技術の習得などの認知能力は、オンラインで一人でも高めることはできる。基礎学力の高いや効率的な学習も、むしろその方がない。学校の役割はそれだけではない。人と人との繋がりによって生きた言葉や距離感を感じること、また、感性や個々の能力(意欲、自信、創造性、社会的調性、忍耐力、立ち直る力など)を向上させることができるのである。そして、このような非認知能力を高めることはオンラインではとても難しい。
 教師としても、今回の休校期間は、学校の役割：特に本校の教育目標である「共に生きる」を考え直すきっかけとなつた。今年、「コロナ」と共に生きる「在宅学習が増えたこと」「家族と登校再開による「一人一人」と共に生きる」様々な場面で新しい時代の「共に生きる」を意識する一年であつたと思う。君達にとって、この一年の人の繋がりは、どのようなか。共に生きる。どうだったのだろうか。
 この一年の出来事と自分に連なる人たちの顔を思い浮かべながら、共に生きる。をぜひ考えてみてほしい。「喜び人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙 第十二章十五節)

(酒井一哉)